



わたしのおかあさんは世界一びじん

ライアー作 ガネット絵 光吉郁子訳 大日本図書

ワリーヤは六^{むっ}つの女^{おんな}の子^こ。おとうさんとおかあさんがはたけではたらいているあいだ、いつのまにかこむぎのなかでねむってしまいました。やがて、目^めをさましたワリーヤはびっくり。おかあさんのすがたがみえません。「おかあさんのなまえは？」まわりの人^{ひと}たちがしんぱいしてきました。ワリーヤは、かなしくてなきじゃくりながら、こういいました。「わたしのおかあさんは世界^{せかい}一^{いち}びじん！」

まもなく、なんにんものびじんのおかあさんがやってきました。

